

# 矢作川流域圏懇談会通信

H30 山部会編 vol.3



発行日：平成 30 年 7 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第 48 回山部会WGを開催しました！

7月6日（金）に第48回山部会WGが恵那市（明智）にて開催されました。今回のWGでは、流域圏担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域森づくりガイドラインに関して、活動の進捗状況と今後の予定について情報共有と意見交換を行いました。



日時：平成 30 年 7 月 6 日（金） 14:00～17:30  
場所：恵那市役所明智振興事務所 会議室 参加者：17 名(事務局含む)

## ◆主な会議内容

### 1. 流域圏担い手づくり事例集について



「流域圏担い手づくり事例集Ⅱ」の作成に向けて、取材先の選定を行っています。取材先の候補は、山の関係団体が 12 団体、川の関係団体が 7 団体となっています。今後は取材者の募集も実施していきます。また、以前のWGで議題となった元豊田市産業部長の故原田裕保さんの業績について、これまでの意見と部会員以外の方への取材を通して、事例集に加えたいと思います。次に、大雨のために見学が中止となった「なつかしい未来の会」の活動について、事務局長の安藤由美子様に紹介いただきました。

#### ◆なつかしい未来の会の活動紹介

なつかしい未来の会は 2015 年に設立した団体です。「山についてみんなで話し合う場を作りたい」というところからスタートしました。ワークショップを通して、里山文化の継承と林業および地域の活性化を目指しています。これまでの主な活動は以下の通りです。今後は、移住定住モデル事業や間伐講習、鹿柵の設置に取り組んでいく予定です。

- ・木馬（きんま）技術（木材の搬出方法）の体験 ・搬出した木の製材
- ・製材品を用いたコミュニティハウスの建設 ・自家製ピザ釜でのピザづくり
- ・桑茶、野草茶づくり ・キノコの菌打ち体験 など



### 2. 矢作川流域山村ミーティングについて



矢作川流域林業担い手 100 人ヒヤリングでは、約半数にあたる 47 名への聞きとりが終了しており、森林組合の森林技術者と林業関係者を数名集めて中間懇談会を行いました。その中で、森林技術者に対する教育や同僚との意見交換の必要性が話し合われました。9月2日に開催される矢作川感謝祭では、4つの森林組合と農協、漁協が一堂に会するイベントを予定しています。また、流域圏懇談会としての参加形態については、川部会と海部会での協議を合わせて検討していきます。



### 3. 矢作川流域森づくりガイドラインについて



岐阜県恵那農林事務所森林保全課長の小島徳文様から以下の項目についての情報を提供いただき、意見交換を行いました。

#### ◆矢作川流域の治山事業に関して

治山事業の位置づけと規模、治山ダムの役割に関する情報共有を行いました。恵那農林事務所管内における治山事業は、県下でも最多となっています。矢作川流域圏に関連する工事は平成 29 年度に 3 箇所、平成 30 年度に 4 箇所で開催されています。これらは、近年甚大な被害をもたらす洪水被害をできる限り予防するものです。

#### ◆森林環境譲与税と新たな森林管理システムに関して

森林環境譲与税に関わる税金の徴収方法や予算配分の仕組み、新たな森林管理システムについて情報共有と意見交換を行いました。新たな森林管理システムは、森林所有者が自ら森林管理を実行できない場合に市町村が森林管理の委託を受け、意欲と能力のある林業経営者に繋ぐ制度です。森林環境譲与税の導入は、このような森林所有者の土地の管理と林業事業体の精査を大きな目的としていると考えられます。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●流域圏担い手づくり事例集について

《取材先の選定と取材者の募集について》

- ・新しい取材者を募り、聞き書きのできる若者を育てていきたい。(沖)
- ・最近事例集の作成のみが目的となっていて、制作する過程の喜びが薄れている。そのため、新しい人が地域の活動に目覚めてもらえる場を設けたい。(丹羽)
- ・8月の合同部会で他部会の方を取材者として勧誘してみるのもいいかもしれない。(中田)
- ・取材者に推薦したい人に声を掛けてもらいたい。メーリングリストでも取材者を募集したいと思う。(洲崎)

《なつかしい未来の会の活動紹介》

- ・建物を建てる際に法的な規制や地域住民からの苦情はなかったのか。(浅田)
  - ▶ 都市計画区域外の場所で、道の新設や建物の建築に問題はなかった。また、代表者が地域でよく知られており、地域住民に対して活動内容を交渉してくれたことから、問題なく行われている。(安藤)



### ●矢作川流域山村ミーティングについて

《矢作川流域林業担い手 100人ヒヤリング》

- ・森林技術者は同僚との意思の共有を望んでいる。また、上に立つ人は自分の権限を理解し、森林技術者を孤立させないために、同僚との横のつながりを認めなければならない。(丹羽)
- ・森林技術者は丹羽さんを信頼している。その信頼に答えて林業活動は動き出すと思う。まさにそれが山村ミーティングの姿である。(山本)
- ・県の農林事務所は森林技術者の声を聞きにくい状況である。そのため、事務所と森林技術者の間で意思疎通ができておらず、食い違いが生じていることがある。(大重)
- ・平成24年の森林経営計画制度により、効率さを求めて森林技術者と事務所の関係に機械的な部分が増えてきた。これにより、現場の声が事務所に届かなくなった。(小島)
- ・森林組合長の人柄によって、現場と事務所の関係が良いほうにも悪いほうにも変わりうるのが現状である。(小島)
- ・山のことを勉強し、現場に出て、森林技術者の気持ちを理解できる人が森林組合のトップとなるべきだ。(林)
- ・木を伐ることも運ぶこともできる森林技術者がいるが、どんな森をつくるかという教育ができていないのが現状である。(丹羽)



### ●矢作川流域森づくりガイドラインについて

《矢作川流域の治山事業について》

- ・やるべき箇所は全て工事済みであるのか、それとも予算等の制約で現状の進行状況にとどまっているのか。(蔵治)
  - ▶ やりたい箇所は多くあるが、予算や書類上の制約もあり、取り組めていない箇所は残っている。工事する場所は市町村からの要望や危険箇所を中心に選定している。(小島)

《森林環境譲与税と新たな森林管理システムについて》

- ・現在進行中の意向調査が適切に執り行われないと、実態とそぐわない方向に税金が使用されると思う。(佐藤)
- ・自伐山主をやってこられた方たちを激励できるようなシステムができるとよい。(沖)

### ●その他(今後の活動)について

《合同部会について》

- ・講演は一番伝えたい事柄に絞り込み、その根拠となるデータを発表してもらうのがよい。また、意見交換は全ての講演が終了後、まとめて行うほうが効率的である。(蔵治)
- ・講演タイトルは全ての参加者が親しみやすい表現にしたほうがよい。(丹羽)

《第49回山部会WGについて》

- ・予定では9月7日となっていたが、8月24、25日に合同部会WG、9月2日に矢作川感謝祭が実施され、早急に話し合うべき内容は無いと考えられることから、9月の開催は見送り、次回の山部会WGは11月とした方がよいと思う。(洲崎)

## 今後のスケジュール(予定)



次回の山部会WGは、11月16日(金)～17日(土)岡崎市にて開催します。

### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。

